

高野参詣道(四)

本号では、平成二十七年十二月号に引き続き、高野参詣道についてご紹介します。金屋熊野十二社からの主要な高野参詣道は、中井原・中野方面へ北に進みます。

如意輪寺は、室町時代に鳥屋城の城主畠山氏や城代を務めた神保氏の菩提所となったこの地域の古刹です。明治時代には、中野尋常小学校が開校され、日本で初めて源氏物語辞典を完成させた郷土の偉人の一人である北山谿太もここで教壇に立ちました(写真①)。

如意輪寺のすぐ北西、国道と市場方面へ分かれる三差路には道標として道分け地蔵があります(写真②)。この道標は、高さ七十五センチほどの自然石の上部に地蔵尊が彫られて



おり、その下には「右いちば道、左ゆあさ道」と刻まれています。

さらに参詣道は宮橋を渡り、白岩丹生神社へと至ります(写真③)。白岩丹生神社は、元は現在地よりも東側にあったものを、明応五年(一四九六)に鳥屋城の城主畠山氏が現在地へ移したと伝えられています。国の重要文化財に指定されている本殿は、欄間の彫刻などに極彩色が残る優れたものです。

また、拝殿前には県指定の天然記念物であるネズの老樹があります。約四十五度の傾斜でねじれながら斜めにのび、上部は三つに枝分かれしています。ネズは成長が極めて遅く、幹周二・七メートルもあるこの老樹は、全国的にも珍しいものと評価されています。